



HP

## 「日常が未来をつくる」

校長 菅谷 和孝

関東地方の梅雨入りも間近に迫り、すっきりとしない曇り空や雨の日が増えてきました。こうした季節は、湿気も多く、私たちの視線や気持ちまで少し下向きにしてしまうことがあります。しかし、そんな暗い空模様とは対照的に、今月の本校の生徒たちは実に生き生きと活動しています。

今月、本校の生徒を含む町の代表団が、三芳町と友好交流を続けている韓国・河東(ハドン)郡を訪問しました。現地での温かい歓迎に触れ、言葉の壁を越えて交流した生徒たちの表情は、出発前よりも一回りも二回りも大きく見えました。さらにこの後には、マレーシアやオーストラリアへと旅立ち、異文化の中で学びを深める生徒たちも控えています。三芳町にいながらにして、本校は今、確実に世界とつながっています。

さて、彼らが国境を越えるとき、最初に武器にするもの、そこでこれからも最大の武器となるものは何でしょう。それは韓国においての「アンニョンハセヨ」。マレーシアでは「スラムツダタン」。オーストラリアでは「ハロー」という現地の言葉で交わす笑顔の挨拶だと思います。挨拶とは、「私はあなたに敵意はありません」「あなたと仲良くなりたいです」という気持ちを伝える最初のコミュニケーションです。世界中どこへ行っても、挨拶から始まらない交流はありません。世界で活躍する人に共通しているのは、高度な語学力だけではなく、この「挨拶の壁」を軽々と超えていける明るさと、相手への敬意なのだと思います。

一方、私たちの足元である学校生活では、こんな出来事がありました。先日、学校の廊下で見慣れない大人の方とすれ違った際、挨拶をせずに素通りしてしまった生徒がいました。後で分かったのですが、その方は本校の生徒たちに進路の魅力伝えるために、わざわざ来校された高校の先生でした。もしかしら、数ヶ月後に自分が受検(験)する高校の面接官になる方もかもしれません。

もちろん、その生徒に悪気があったわけではないでしょう。しかし、私たちは時として、「知っている人には挨拶をするけれど、知らない人にはしなくてもよい」と考えてしまうことがあります。おそらくその先生は、皆さんの「〇〇さん」という個人の名前までは分からないかもしれませんが、「藤久保中学校の生徒である」ということははっきりと認識しています。一人の行動が、学校全体の印象にもつながっているのです。

生徒の皆さんの中には、面接試験や受検(験)など、自分にとって大切な場面だけは立派な挨拶をしようとか、「本番になればきちんとできる」などと考える人もいるかもしれません。ですが、本当に人を惹きつける人間性や力というものは、その場限りの対応では本物にはなりませんし、自分のスキルとして決して身につけてはならないと思います。

数多くの企業を再建してきたある有名な経営コンサルタントが、倒産しかかっている会社に赴いた際、最初に取り組んだのは経営戦略の見直しではなく、「社員の挨拶の徹底」だったそうです。なぜなら、挨拶が機能していない職場では、社員同士が心を閉ざしてしまい、どれほど優れた提案や助言、経営ノウハウがあっても、お互いに素直に受け入れられなくなってしまうからです。

逆に、爽やかな挨拶が飛び交う職場では、それだけで人と人との心が開きます。そして、新しいアイデアが生まれ、お互いに挑戦する雰囲気生まれ、チャンスをつかむ人が増えていく。結果として組織全体が内側から活性化し、業績も自然と回復していくのだそうです。私はこの話を聞いたとき、挨拶とは単なる形だけの礼儀作法ではなく、人と人との信頼関係を築くための、最も大切な土台なのだと改めて感じました。

このことは、生徒の皆さんの将来の進路にもそのまま当てはまるのではないのでしょうか。現在、埼玉県では令和9年度公立高校入試に向けて、大きな制度改革が進んでいます。その中では、受検(験)生自身がこれまでの歩みや強みを表現する「自己PR書」の導入があります。これからの時代は、単に知識や技能を身に付けるだけでなく、「自分をどのように表現するか」「他者とどのように関わるか」が、これまで以上に大切になっていきます。

そのような自己PR力やコミュニケーション力は、いざ受検(験)期になってから急に身につくものではありません。高校の先生方や社会の大人たちは、その場だけ取り繕った態度よりも、その人が普段の生活から身につけている姿勢や雰囲気を敏感に感じ取ります。

\* 誰に対しても分け隔てなく「こんにちは」と声をかけることができる人。

\* 何かしてもらったときに自然に「ありがとうございます」と言える人。

\* 自分から笑顔で関わろうとする人。

そうした人は、特別な面接練習をしなくても、それだけで十分に魅力的な自己PRができています。廊下ですれ違った「知らない人」が、将来の恩師になるかもしれません。地域社会で出会った人が、自分の夢や進路を広げてくれるかもしれません。社会とは、そうした何気ない出会いの積み重ねの先にあるものです。

現在、本校では全国中学校体育大会へとつながる人間東部地区予選が各競技で行われています。仲間とともにこれまで流した汗と、努力してきた成果を発揮する大切な舞台です。スポーツの世界を見ても、挨拶や礼法を行わずに始まる競技は一つもありません。特に武道には「礼に始まり、礼に終わる」という言葉があります。試合をする相手を尊重し、正しい作法で始まり、正しい作法で終える。それは単なる形式ではありません。相手への敬意であり、自分自身の心を整え、最高の力を発揮するための大切な行動です。

学校でも、家庭でも、地域でも、そして世界でも、人と人をつなぐ原点は変わりません。これから先、生徒たちは進路選択や部活動、地域活動、世界との交流など、さまざまな挑戦をしていきます。

「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」当たり前のように交わされるこれらの言葉ですが、その一言に込められた相手への敬意と感謝、そして自分から心を開く勇気こそが、人と人とを結び、未来を切り拓く力になるのだと思います。

梅雨空の続く季節だからこそ、相手の心の曇りを晴らすような爽やかな挨拶が、藤久保中学校にさらに広がっていくことを願っています。そして生徒たち一人一人が、日々の何気ない積み重ねを大切にしながら、自らの進路へ、そして世界へと力強く羽ばたいてくれることを期待しています。

